

笑顔の ひろば

vol. 21

春号

発行

2013年5月8日

川崎協同病院広報委員会

川崎市川崎区桜本 2-1-5

TEL:044-299-4781(代)

FAX:044-299-4788

<http://kawasaki-kyodo.hospi.jp>

新人です！仲間になりました!!～新入職員紹介～

今年度も初期研修医2人をはじめ26人のニューフェイスが職場の仲間に加わりました。

4月1日からは本部で1週間の新入職員研修が行われ、川崎医療生協の歴史をはじめさまざまな分野について学び、2週目からは各職場へ赴き、それぞれのフィールドでさらに研修を受けました。

将来は、川崎協同病院や川崎の地域医療の未来を担う医療人として期待されています。そうしたみなさんはどんな横顔を持っているのでしょうか。代表で4人を紹介します。

question

- ①この仕事を選んだ理由は？ ②協同病院を選んだ理由は？ ③特技 ④休日の過ごし方
⑤好きな食べ物 ⑥おすすめの映画 ⑦行ってみたい国、地域

齊木好美（医師）

- ①小さい頃に、喘息でかかりつけの先生にお世話になってから憧れの職業でした。
②病院見学をした際に、佐々木先生をはじめ多くの先輩が、患者さんに接する態度や姿をみて、この先生達に色々教えて頂きたいと思ったことがきっかけです。
③ダンス
④ゆっくり寝て、ダンスのレッスンに行くか、部屋の掃除をして・・・友達と飲む！
⑤じゃがいも
⑥あんまり見ないんですけど、「リアルスティール」はおもしろかったです。
⑦マチュピチュ



藤原敬久（医師）

- ①白衣姿に憧れたからです。
②人との距離が近く、医師としての基本を身につけるのにふさわしいと感じたためです。
③持久力（マラソン）には自信があります。
④フットサル、ランニング、体を動かすこと
⑤焼肉
⑥「人生ここにあり」「のぼうの城」「サマーウォーズ」
⑦タイ、カンボジア等々東南アジア全域



矢澤真紗美（作業療法士）

- ①元々、医療従事者の多い家庭で育ち、私も将来医療の分野で人の役に立ちたいと思っていました。曾祖母が作業療法を受けたことをきっかけに作業療法士に興味を抱いたのがきっかけでした。
②専門学校に通っていた頃、先輩の紹介でリハビリテーション科の助手のアルバイトをはじめました。働いているうちにたくさんの先生方と交流させていただき、将来一緒に働きたいという気持ちが強くなっていきました。
③幼い頃から新体操を習っていたので、身体の柔らかさは誰にも負けない自信があります。
④家族みんなで外出したり、友人と連絡を取りあって出かけたりしています。
⑤野菜や魚料理よりも肉料理が大好きです。
⑥ジブリシリーズは欠かさず観ています。
⑦いつかマチュピチュに行ってみたくてと思っています。



芳賀千里（看護師）

- ①人に喜ばれる仕事がしたいと思ったことです。また、幼い頃に大好きだった祖父を亡くし、少しでも病に苦しむ方の力になればという思いがあったことです。
②看護体験に参加した時に病棟のあたたかい雰囲気を感じたのと、看護部長から協同病院の看護についてお話を伺い、私もここで働きたいと思いました。
③パワーポイントやワードを使った見やすい資料作りです。また、特技と言える程ではありませんが、最近は料理を頑張っています。
④友達と買い物や食事をして過ごします。家ではネコと遊んだり、一緒にゴロゴロします。時間がある時は遊園地や旅行に行ったりもします。
⑤フルーツ全般とグラタンが大好きです。また最近ラーメンのおいしさを知りました。
⑥「ライフイズビューティフル」です。父親の子供への愛情の大きさに涙が出ます。「ショーシャンクの空に」もおススメです。
⑦イタリアで世界遺産の観光をしたり、おいしいものをいっぱい食べたいです。あとモルディブでキレイな海を見ながらのんびりしたいです。



外科って どんなトコ?

2012年度は福田直人（部長）、和田浄史（科長）、仁木径雄、佐野允哉の4人体制で外科診療を維持してきました。今年4月からは、新たに後期研修医として小倉礼那が外科チームに参加し、5人体制になり、さらに充実した診療実績を残せると確信しています。

日常診療としては、おもに診療の対象となるのは消化器疾患（消化器がん、胆石症、虫垂炎）、乳がん、鼠径ヘルニア、外傷、熱傷などです。悪性疾患では胃がん、大腸・直腸がん、乳がんが3本柱で、食道がん、膵臓がん、胆管がん、肝臓がん等の症例も適応があれば積極的に手術に取り組んでいます。良性疾患では鼠径ヘルニア、胆石症、急性虫垂炎が主要手術例でした。



病院中屋上にて 左から和田科長・佐野医師・福田部長・小倉医師・仁木医長



腹腔鏡下S状結腸切除術を行う仁木径雄、佐野允哉、福田直人の各医師（左から）

最近では腹腔鏡下手術（カメラを腹腔内に挿入して行う侵襲の少ない手術）を積極的に導入しています。適応疾患は現時点では胆石症、大腸がん、胃がん、虫垂炎に限定されますが、胆石症では約90%の症例に、大腸がんでも半数以上に腹腔鏡下手術を適応しています。

また、内科慢性期患者さんに対する内視鏡的胃瘻造設術やCVポート造設術の需要が多く、年々症例数が増加しています。このほか、進行・再発がんに対する化学療法も積極的に実施しています。

診療以外で特筆すべきは、『すみれ会』という、乳がん手術後の患者会の存在です。当科からも和田科長が参加し、会員全体では数十名がいらっしゃいます。年3回の定例会（新年会、お花見、勉強会）で、会員や病院スタッフとの親睦を図っています。

このように患者さんを大切にする気持ちを常に持ち、また最高・最善の治療を提供できるような診療に日々励んでおります。

外科 部長 福田直人

無料送迎巡回車 出発進行！！ ～川崎協同病院がもっと便利に～

川崎協同病院を利用しやすくし、医療の連携をスムーズにするために、京町診療所と川崎セツルメント診療所から川崎協同病院、協同ふじさきクリニックをつなぐ送迎巡回車が、今年1月から運行されることになりました。

車は、京町便は8人乗りのワゴン車、川崎セツルメント便は4人乗りの軽自動車で、最初の週は、利用者は1人だけでしたが、次の週は10人前後となり、その後徐々に増えています。

利用された方からは、「はじめは利用者が少なかったので自転車も載せてもらい、行きだけでも利用できて助かった」、「親が協同病院に入院し、お見舞いに利用させてもらった」、「診療所の看護師が、協同病院で巡回車の出発時間に合わせて予約をとってくれて助かった」といった声が聞かれました。

巡回車の運行時刻は、京町診療所発が1便10時30分、2便11時30分、3便13時30分、4便14時30分です。川崎セツルメント診療所発は、火曜日の午前中のみです。詳細は各診療所に問い合わせください。まだ、利用されていない方は、ぜひ乗ってみてはいかがでしょうか？

地域連携室 柳井房子

あくしょん

action

京町診療所発	1便 10時30分
	2便 11時30分
	3便 13時30分
	4便 14時30分
川崎セツルメント診療所発	火曜日の午前中



私が担当します！

安全で適切な新生児管理の実施を…

今年4月から川崎協同病院に帰任した小児科医の高村です。2004年から2010年の間、川崎協同病院の小児科で勤務していましたが、この2年間はおもに新生児医療を中心に他の病院で研修を行ってきました。

当院では2005年より産科・小児科病棟を設置し、出産・新生児管理・小児入院医療を実践しており、「産婦人科医及び助産師との協力による安全で適切な新生児管理の実施」を掲げてきました。



小児科医師 高村彰夫

北里大学卒業 川崎協同病院、汐田総合病院にて初期研修。
東邦大学小児科教室にて研修後、川崎協同病院小児科入職。
沼津市立病院新生児科、横浜市済世会東部病院新生児科にて研修。



入院治療については、数少ない川崎南部の小児科入院施設を維持しながら川崎市の小児二次救急病院としての機能を発揮し、同時に若い小児科医の教育も行っております。

また、小児科の医師体制を充実させることで、待ち時間の少ない外来医療の実施、予約外来以外での予防接種、ニーズに沿った専門外来など地域の人々の期待に応えられる小児医療をこれからも追求していきます。これらを通じて、お子さんを中心とした家族が安心して暮らせる地域になるように、微力ながら貢献できればと思います。

トピックス TOPICS

病院を出て春を感じました ～お花見散歩会～

4月5日、晴天に恵まれた穏やかな陽気の中、今年のお花見は、散歩会としておこなわれました。一人ではなかなか屋外に出られない入院患者さんが、新入職員やボランティアさんの手を借りて、車いすです近くの桜川公園までの往復30分ほどの散歩です。

桜川公園では、ほぼ葉桜になったソメイヨシノの傍らで、八重桜がみごとに花を開かせていました。その

下で色とりどりのパンジーや菜の花が見ごろをむかえており、その花を前に、写真を撮られる患者さんたちの表情に笑顔が見られました。

散策して戻ると、地域で活躍している組合員さんが、温かい飲み物を準備し、ふるまってくれました。飲みながら、新人による「歌の出し物」を一緒に楽しみました。「しあわせなら手をたたこう」や「上を向いて歩こう」をギターにあわせて、手をたたき、足を鳴らし、楽しく歌いました。

「久々の外出で、春を感じました」。患者さんの言葉に、私たち職員も元気をもらいました。

看護部長 八木美智子



おじゃま
します！



“わが家”とじててもらえる ホームを目指して～桜寿園

病院は地域との連携がなりより大切。近隣の医療、福祉関係の施設や機関を訪問し、毎号紹介していきます。第1回は、介護老人福祉施設、桜寿園（社会福祉法人セイワ、川崎区桜本）です。

（取材：地域連携室 小森千絵、高橋靖明）

川崎協同病院から歩いて5分、川崎の最南端部桜本の町工場や住宅が密集する地域に3階建ての桜寿園があります。玄関を入るとすぐにデイサービスを利用されている方々のにぎやかな声、面会の方、職員の姿と活気にあふれていました。フロアは日差しが入り明るく、温かい雰囲気にもまれていきます。



平成4年2月、川崎区内で2番目の特別養護老人ホームとして桜寿園は開設しました。デイサービスやショートステイなどの在宅福祉サービスの充実にも力を注ぎ、“頼りにされる施設”を目標に運営してきました。

●商店街へ出て買い物

開設当初から、園内にある在宅介護支援センター（現在は地域包括支援センター）の相談員が積極的に地域を走り回り、医療・保健・福祉の関係機関と連携を図っています。入所者は74人。身体が不自由で外出もままならない方ばかりのようですが、桜寿園を“家”と感じてもらい、地域で暮らしていることを実感してもらうよう外へ出ることを園では勧めています。

入所者は、地域行事への参加や季節の行事を楽しむのはもちろん、川崎駅前の回転寿司に行ったり桜本商店街の洋品店で買い物や近くのスーパーでお菓子を買うの

を楽しみにされています。また、園を訪れる歌のボランティアは大人気です。

最近、川崎区内から入所される方がほとんどなので、ご家族や友人等の面会も非常に多く、毎日いろんな方が来園されています。入所されている最高齢は101歳。誕生日には、この方が入園前からかかっていたという開業医の先生がお祝いにと大きなバースデーケーキを持参され、笑顔で記念写真の撮影となりました。

●桜寿園から協同病院へひとこと・・・

施設は常時スタッフがいても病院とはちがいます。園の入所者が退院する時は“家”に帰るわけです。退院時にカンファレンスや病状説明を行う際はぜひ声をかけてください。いいコミュニケーションがとれるといいですね。

●おじゃまして・・・

施設の方々が利用者の方々ととても大切にされていることがわかりました。桜寿園は安心して生活できる場なのです。施設に入っても今まで地域で生活していたのと同じ環境やつながりを切らず、継続できるよう努力されていることに感激しました。私たちも入院、退院時は患者さんとていねいに関わることを心がけていきたいものです。

（協力：桜寿園 中島達也施設長、仁科淳子管理係長）



広報係 の ひとりごと

新年度がスタートしました。年度が改まると清々しく新たな気持ちになりますね。当院も初期研修・後期研修・研修から戻ってきた医師など、新顔や久しぶりに見る医師が多く入ってきました。

医局に身をおく私としては清々しい気持ちがある一方、新たな体制による混乱が心の中に同居している今日この頃です（汗）

今回の笑顔のひろばでは、何人かのニューフェイスの横顔を紹介しました。これらの人たちが川崎の地域で医療者としてすくすくと成長していく姿を楽しみにしています。地域の皆様も一緒に見守ってください。

医師事務室 木下博志

